

会 議 録

1 会議名

平成28年度第2回上越市食育推進会議

2 議題（公開・非公開の別）

(1)第3次上越市食育推進計画（素案）について（公開）

3 開催日時

平成28年10月14日（金）午後1時30分から

4 開催場所

上越市役所 401会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：高橋慶一、野口孝則、品田やよい、小林毅夫、井上智子、岩井文弘、松田光代、尾崎徹、平澤栄一、津島けい子、山岸マサ子、武田昌子、笹川玲子、牛木秀人（八木智学代理）、桃澤靖、高橋正弘
- ・事務局：農村振興課古澤課長、栗和田副課長（食育推進担当）、健康づくり推進課田中副課長（食育推進担当）、保育課堀川副課長（食育推進担当）、農政課桐木副課長（食育推進担当）、教育総務課本間副課長（食育推進担当）、学校教育課手塚副課長（食育推進担当）、社会教育課山本係長、農村振興課伊藤係長・内山主任

8 発言の内容

農村振興課古澤課長：只今から、平成28年度第2回上越市食育推進会議を開催いたします。本日、司会を務めます農村振興課の古澤でございます。よろしくお願いいたします。

本日の会議ですが、井上智代委員、荒木委員、山崎委員、見波委員、田村委員、倉石委員、梅田委員から事前に欠席の連絡をいただいております。

なお、お手元の「上越市食育推進会議規則」の第2条第2項の規定により委員の半数以上が出席しておりますので、会議を開催できますことをご報告させていただきます。

まず、議事に入ります前に、会議資料の確認をさせていただきます。

先日、次第、食育推進会議委員名簿のほか、資料No.6までをお送りしていましたが、本日ご持参いただいておりますでしょうか。

お持ちにならない方は、お申し出てください。

（本日、配付資料読み上げ、配付資料の確認）

また、本日の会議の終了時間につきましては、午後3時を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、委員改選後、初めて出席される委員の方から一言ずつ自己紹介をお願いしたいと思います。

(井上智子委員、津島委員自己紹介)

ありがとうございました。

それでは、開会に先立ちまして、高橋会長からご挨拶を頂戴したいと思います。

高橋会長、お願いします。

高橋会長 : (高橋会長、あいさつ)

農村振興課古澤課長 : ありがとうございました。

それでは、議事に入ります。これより先は「上越市食育推進会議規則」第2条第1項の規定により、会長が議長を務めることとなっております。なお、本日の会議録は後日、上越市のホームページで公開されますので、あらかじめご承知おきください。

高橋会長、よろしく願いいたします。

高橋会長 : 今ほど事務局から話がありましたとおり、しばらくの間、議事を進行させていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは次第に沿って議事を進めていきたいと思えます。

次第「3 議事 (1) 第3次上越市食育推進計画(素案)の修正について」、事務局から説明をお願いいたします。

農村振興課栗和田副課長 : (資料No.1~5を基づき説明)

高橋会長 : ありがとうございました。

ただ今、説明がありました素案の修正について、ご意見、ご質問等はありませんでしょうか。

岩井委員 : 「おいしい」という言葉が基本方針に全部に入っていて、食育を推進するうえで、「おいしいもの探しと間違えられるのではないか。」と言いましたけど、そこを削除していただいて、「～します」としていただきました。私個人としては、本当に満足しています。

松田委員 : このように入れていただいてありがとうございます。

岩井委員 : 単身者とか家庭の構造、子供の数など変わってきています。共食という事が非常に大切になってきております。地域の共食の取り組みを推進するという事だと思いますけど考えて見ますと大変なことです。推進していかなければならない事なのですが、行政の方は、どの程度のことまで考えているのか。家庭での家族と一緒に食べるのが基本であること。その辺のことをできるだけ改善していく方が得策ではないかと考えるのですがいかがでしょうか。

農村振興課栗和田副課長 : 前回、これについては市の方でも共食について非常に難しい点があるということで、理解しているところでございます。委員の多くの皆様から共食の必要性、今の社会情勢、家族構成等からそれぞれ必要性というものを前回の会議の中で、お聞きしたところでございます。地域での共食の取り組みという事で、今回の計画に位置付けていこうと思えます。そこに書いてございますように家族での共食というのも難しい

状況も表れてきています。しかし、家族との共食というのが一番大事な取り組みでもございますので、家族との共食も当然厳しい状況ではありますが進めていくということで考えてございます。厳しい情勢も踏まえまして、「こども食堂」、「シェア飯」といった新しい取組もこの計画の中で検討して、実行できる部分はやっていきたいと思っています。

小林委員

：Bの項目の共食のような意味も含めて、活用方法ということです。ひとつだけ、男の人の料理教室の話は、ここでなくても実現していくことだと思います。ありがとうございました。

平澤委員

：食育について現実に現代の社会の病理の中で、食が変わってきています。それは、つきつめていくと暮らし、経済、政治など大きな力が働いて、その中で暮らす人たちがどんどん追いつめられているという現実があるような気がします。そういう中で簡単にこういう話し合いでいいのかなという気が少ししました。例えば、TPPですが、外国のどこで作ったのかわからないようなものが、どんどん入ってきて、国境措置も万全でないという情報がすごく伝わってきます。そういう中で、中身が保証できないものを輸入して、安いから飛びつかざるを得ないという経済事情がありますし、実際にそれが導入されるわけですけど、一方で日本農業が成り立たなくなってくるわけで、そして、日本農業もとにかく生産一辺倒で利益を上げなければいけないという命題を政治の中で与えられているわけです。わが上越というのは、山間地を中心にしてもう荒廃地がどんどんできてきている。そこで暮らしていけない人たちがどんどん下へ降りてきて、子供たちも出ていき、戻らないという現象が深い問題になっていると思います。そういう問題に全部目をつぶって、食育だけ取り上げてもなんだかむなしいと思います。一つの問題提起として、食を考える前に私たちの暮らし、経済、政治なども大きな問題なのだという気がします。やはり、上越に生まれてこんなに生産性が高くなってきているのにもっと人間らしいゆったりとした楽しい暮らし、親子そろって食事ができるということが、最低限保証されるようなそんな時代になっていくべきだと思います。そういう観点で食育を掘り下げてほしいと思います。

山岸委員

：今、平澤さんの方から言っていた事、私も普段同じようなことを感じております。我が家の実態からもいろいろな事を考えさせられ日々おります。食育を迫及することも大事なことです。それ以前のことでもまた、考えなければならぬと考えさせられます。

野口委員

：資料No.2のように今までは基本施策のところまでで終わっていましたが、今回、全体の総合的な書面の中でもライフステージが6つほど明記されていることがよりこの資料によって明確になり、さらには実施の主体としてもこの5つが主体というわけではないところもあるかもしれませんが、もちろん家庭が実施主体であります。その家庭に呼びかけるのは、学校であり、地域であり、行政であるという関連性は、もちろんあります。主体がどこかということもわかりやすくなったという事は、今後

この上越市において、全体的な食育の情報を市民へ提供していくときにもライフステージごとにパンフレットが作成出来たり、情報の集約及び、その集約された情報を解析して、そこからターゲットを絞った情報の提供にまで行えます。例えば、子供向けのホームページを開設することも可能になるかもしれません。いわゆる連携主体です。専門職種の方々がどういう人たちと連携して行ったらいいのかということもライフステージが明確になったことによって、そして実施主体が明確になったことによって、より動きやすくなるのではないかとことから考えますと小さな修正かもしれませんが、私からするととても大きな「見える化」の修正をしていただいたなと思います。これが見えたことによって、動きがよりスムーズになるのではないかと感じております。

品田委員 : 書いてあるだけでなく、これに伴って進めていくことが大事なのだなと思っております。

笹川委員 : 同じくライフステージ別に個々に細かく表れてあって、よろしいかと思っております。

高齢期なのですが、健康に対する意識が高いので、あちこち色々な情報を健康の本から引っ張ってきて、「これがいいかも。」と言っていますが、情報も偏った情報だったりもするので、先ほど野口委員もお話しされたように、年代別のパンフレットで明確な何かがあったらいいのではないかと思いました。

武田委員 : 過食と言っても年代別に問題視されています。幼児期・学童期はおやつや炭酸飲料などの過食が主で、働き盛りの人は、食べ物の変化、特にレトルト食品、野菜不足、飲んで寝るだけになってしまう。高齢期の人は、孤食で自分の好きな物ばかり食べる。食べ物の偏りがありすぎて、過食に走って、小学生でも血液検査をするとコレステロールや糖尿病の子供が多いそうです。これを聞くとびっくりします。小学生で成人病ということは、食が乱れているのではないかと感じております。

品田委員 : 食べ残しの問題を取り上げていただき、目標値やパーセンテージを出していただくのは、とてもいい事だと思えました。この食べ残しの問題は、環境もそうですし、過食・飽食の時代にあって大事な問題だと思います。学校でも食べ残しの内容に取り組んでいますので、誠にありがたいことだと思っております。

高橋会長 : ありがとうございます。

その他に気付いたことなど何かありましたらお願いします。

野口委員 : 資料No.5「第3次上越市食育推進計画（修正素案）」34ページ 内容等は問題ありません。修正されたものと比べると〇〇の要望、改善、推進、励行などいずれにしてもポジティブな言葉で、「地域への共食の取組」は、「取組」になっていますので、ここを地域へ共食の「推進」であるのか「促進」であるのか、「支援」であるのか。37ページ「食品ロス削減の取組」この2か所が「取組」になっています。この「取組」の言葉を例えば食品ロスのところでは、「啓発」としていただく方が、他の項目と

同等にポジティブな単語を使いながら前向きに進めていきますという意思表示で明記された方がいいかなと気が付きました。

農村振興課栗和田副課長：了解しました。

野口委員：資料No.3「計画推進に当たっての目標値の（案）」

1 ページ【基本方針 1】の 2「健康づくり支援店数」のところですが 222 と 236 という数字は、どういう意味でしょうか。

健康づくり推進課田中副課長：この数字は、県で取りまとめた数字になりますので、県の数字が市の数字という事で同じ数字になります。

野口委員：現状の 222 軒というのは、上越市内で 222 軒ですか。それを県でとりまとめているという事ですか。県の方が 236 軒を目標値にしているということなので、市でも 236 軒を目標値にしているということですね。

先ほど気になるところがありまして、※印がついているところです。例えば、1 ページ【基本方針 1】の 4「虫歯のいない市民の割合」の 12 歳児 84.7%が現状で虫歯の無いお子さんが 84.7%いるわけですよね。平成 33 年には、80%を目標にするということなのですが、事務局のご説明もあったところですが、目標値であって現状で満足していて、現状よりも低くなってもいいと考えるくらいならば、項目として削除すべきと思います。目標の数値としてあげるのであれば、今よりももっとよくなることを考えた食育推進計画なのではないかと思います。それと 2 ページ【基本方針 2】の 3「地域食材を積極的に活用する飲食店」です。151 軒あって、目標が 150 軒でなぜ目標数値をさげるのだろうか。疑問に思いましたので、そのあたりの説明をもう少ししていただきたいです。口頭での説明を聞いて私も委員の皆さんも納得はできますが、市民の皆さんにこの数字の書き方で、本当に納得して頂けるのか気になりました。

岩井委員：目標値のところで、疑問に思ったのは、目標値をどのようにして決められるのかということを疑問に思いました。

1 ページ【基本方針 1】の 1「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を 1 日に 2 回以上ほぼ毎日食べている市民の割合」という項目ですが、上越市だけ極めて低いですが、上越市の実情はどうなっているのか教えていただきたいです。

農村振興課栗和田副課長：目標値の設定につきまして、市の設定につきましては、それぞれ市の関係部局で現状値を分析したうえで、県や国の目標値を参考にしながら実際に目指す、到達できる目標という形で今回、設定したものであります。

野口委員からお話がありました 2 項目については、他計画との整合性ということで下方になっているものがございまして、基本は、現状、国・県の動きや取組等を参考にしながら、設定をさせていただいたところがございます。

健康づくり推進課田中副課長：1 ページ【基本方針 1】の 1「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を 1 日に 2 回以上ほぼ毎日食べている市民の割合」の質問についてですが、現状を見た時にあまりにも低いということで、栄養士・

保健師に聞き取りを行いました。その中で、特定健診という健診が始まってから栄養士・保健師が町内で食について指導するにあたって、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事という指導ではなく、それぞれの体の状態に合わせた1日の基準量でお話をする事が多く、市民の皆さんに主食・主菜・副菜を組み合わせたという文言を用いた指導が少なくなっているように思うという感想がありました。また、各世代の生活の実態、食の傾向として、朝食の欠食、菓子パンだけ・ラーメンだけなどの単品だけが多いことで主食・主菜・副菜という食べ方が少ない傾向があるのではないかと推測しています。

岩井委員 : この数値を見ていると上越市の取り組みが遅れていて、問題があると思ってしまう。実際は、国の数値よりこんなにも低くはないと思われるます。前年度より栄養士さんのご指導で数値は下がりつつあるのかなとは、思いますが、実際にはここに書かれているような数値ではないと思います。

高橋会長 : 目標値の考え方で、現状に適度な上乘せなのか、あるべき姿としての数値なのか、理想を掲げるべきではないか。国、県はあるべき姿として70、80%にしているのではないか。

健康づくり推進課田中副課長 : 今の実態のところから、これからの保健指導の中で、バランス良い食べ方というところも周知する中で現状から上乘せで目標値を決めました。もちろん、指導の仕方は、その人の状態に合わせた食べ方を指導していきたいというところもありますので、一日2食きちんと食べているというところに注目するのであれば、自分の体に合わせたものをバランスよくという事で、指導の内容に付け加えていくことで、目標値に近づいていくのではないかと考えております。国、県の目標値の設定基準はわかりません。

笹川委員 : 市の方の説明で、目標値の表記としては、しょうがないことということでしたが、150軒という目標がどこからきたのか、地産地消推進委員としてわかりません。もっと市の中で目標値ぐらいは課同士で話し合いがあってもよかったと思います。その上で次回の予定の表記があってもよかったかもしれないです。「地産地消推進の店」というのは、地産地消を広めましょうということを前提としているので、あまり厳しくは設定がなく、ダメな所があれば改善するように指導していくような仕方、理解をしてくださるお店を出来るだけ広めましょうという前提です。ここまで広がってきてもう一段階上にあげましょうという事は、何も問題はないのではないのでしょうか。現状を下回る目標値というのは、どう考えても不自然なので、担当課で話し合えるのなら将来的な数値を出せるのならそのほうがいいのではないのでしょうか。

農村振興課古澤課長 : 「地産地消推進の店」につきましては、確かに笹川委員のお話しされた通り、今年度に入りまして、いろんな周知、勧誘などを行い10軒以上入っていただいた結果が151軒となっております。「上越市第6次総合計画」で150軒という目標値が出ていまして、それに合わせてあります

けど、今後継続して、店を増やして、地産地消を広めていくという観点を基に取り組んでいきますので、現数字を踏まえたうえで対応したいと思います。

野口委員 : 1 ページ【基本方針 1】の 4「虫歯のない市民の割合 12 歳児」の目標値が県とあわせて 80%となっておりますが、やはり現状が 84.7%で、5「中学生で歯周病と判定される生徒の割合」が 17.8%となっていて、そこを減らしたいなら、現状 84.7%をもっと高めない限り虫歯のない 12 歳児を増やさないと歯周病判定は減らないと思われます。ここは、県の目標は 80%、しかし上越市は県の目標より 12 歳児の虫歯が少ないことを目指すこれが上越市の食育の計画目標数値なのではないかと思いました。

健康づくり推進課田中副課長 : こちらの目標値については、もう少し高めに検討してから出したいと思います。

井上委員 : 食べ物の話があるなか、2で「健康づくり支援店数」があるより、後の方がいいと思います。1と3で食事に関するが続いているので、「健康づくり支援店数」がその間に入るのは、カッコ悪いような気がします。

井上委員 : 虫歯のない市民の割合の目標値は、県に倣えではなく、上越の目標値を設定した方が良くと思います。虫歯がない市民が多いのに中学生の歯周病がこんなに多いのは、わかりません。それと「虫歯のない市民の割合」で 3 歳児と 12 歳児が出てくるところが言葉としておかしいような気がします。中学生まで虫歯のない割合を調べた方がいいのかと思います。

健康づくり推進課田中副課長 : こちらの数値については、「歯科保健計画」の中に入っている指標です。虫歯のない市民というよりも児童・生徒の割合というところと中学生の歯周病というところでの問題点を提示しました。12 歳までは「虫歯」、それ以降は「歯周病」の問題が大きくなっていくところでこの指標が出ています。

高橋会長 : 3 歳～12 歳の「歯周病」、中学生の「虫歯」に関する数字はないのでしょうか。12 歳までは「虫歯」を問題にして、中学生になると「歯周病」を問題にするというのは、表としてはすっきりしないと思います。

健康づくり推進課田中副課長 : 歯科検診では、中学生でも虫歯の検査をしておりますので、割合はわかるかと思いますが。3 歳児～12 歳児までは、「歯周病」としてはありませんが、「歯肉」に問題があるという検査はしております。そのことについての記述は、また検討したいと思います。

平澤委員 : 郷土料理、伝統料理などを取り上げていますが、食育もひとつの文化運動だと思いますけど、各地域にいろいろな伝統料理があると思いますがお年寄りが亡くなられたり、伝承する若い人がいなかったりして、どんどん消えていくと思います。市で登録していくことや農協の婦人グループの協力を得て、上越の郷土料理を満載した登録活動のようなものはできないのか。ホームページでいい事がたくさん書いてありますが、具体的に活字や写真で残すことをきちんとやるのが大事なような気がします。いかがでしょうか。

高橋会長 : 地域の伝統料理などをホームページを活かして、上越版「クックパッド」みたいな感じで、レシピ、材料など料理を再現できるように資料を作ったという話は以前から出ていたような気がします。

以上で議事を終了といたします。

ただ今、委員の皆様からご意見いただいた箇所を事務局で修正後、計画(案)としてパブリックコメントにかけていきたいと思っております。なお、細かい文言や言い回し等の修正については、事務局に一任させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします

(異議なしの声)

高橋会長 : それでは、細部の小修正については、事務局の方で作業をお願いします。

事務局からお願いします。

農村振興課栗和田副課長 : 今ほど、委員の皆様からいただきましたご意見を踏まえ、特に計画推進にあたっての目標値の設定につきましては、関係部局と協議をしまして目標設定をしたいと思っております。このような会議がなかなか取れないので、細かい修正等は、会長にご確認をしたうえでパブリックコメントにかけていきたいと考えておりますので、ご了解をお願いいたします。

それでは、資料No.6をご覧ください。今後のスケジュールでございます。今回、皆様方からいただいたご意見を基に、「第3次上越市食育推進計画(案)」を修正しまして、会長と協議のうえ12月にパブリックコメントの実施を予定しております。12月中旬～1月中旬の1か月間予定しております。その後、パブリックコメントの結果を受けまして再度、計画(案)の修正を行い、2月下旬予定の「第3回上越市食育推進会議」でご報告させていただき、最終的には、「第3次上越市食育推進計画」を決定していきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

農村振興課古澤課長 : 高橋会長、ありがとうございました。

それでは次に次第「4 その他」ですが、事務局から連絡事項があります。

農村振興課栗和田副課長 : お時間のないところ申し訳ございませんが、2点ほどご連絡させていただきたいと思っております。

お手元の方に資料を配らせていただきました。「上越の海の幸を食べよう」キャンペーンということで、この度市の方で「地産地消推進の店キャンペーン」として、食育活動の一環でもございますが、地産地消の推進に取り組んでいるところでございます。この度、11月1日～1か月間、上越の海の幸をテーマに22店舗からご参加いただきまして、キャンペーンを実施いたします。昨年は、上越野菜をテーマにこのキャンペーンをさせていただき、大変好評をいただいたところでございます。今年度は、上越の魚介類を食べて頂き、地産地消を進めていきたいと思っております。委員の皆様からも是非、PRを行っていただくとともに参加店に足を運んでいただき、上越の海の幸を召し上がって頂けたらと考えており

ますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

もう一点でございます。食品ロス削減のための「食べきり呼びかけ運動（案）」という資料の方をご覧いただきたいと思ひます。

今ほどの推進計画の議題にも上がりましたが、食品ロス削減ということが叫ばれているところでございますし、市といたしましても食品ロス削減に向けまして、皆様と意見交換を行ったり、FM上越や広報上越などのマスコミを使ったりしながら、食品ロス削減の啓発をさせていただきました。また、市のイベント食育フォーラムや環境フェアのなかで食品ロス削減の呼びかけをしてまいりました。この度、市の方から市民運動という形で提案したいと考えておりますが、特に宴会時における食品ロスを減らそうという事で、宴会での食べ残しが非常に多いという現状も踏まえまして、今回、宴会中の「食べきりタイム」の励行という形での市民運動を今後展開していきたいと考えております。つきましては、委員の皆様からご意見を頂戴いたしたいと考えております。

資料をごらんください。

（食品ロス削減のための食べきり呼びかけ運動（案）資料の説明）

もう一点、平成28年度上越市生活環境大会ということで、チラシを最後につけさせていただきました。当市の生活環境課からのお願いでございますが、11月10日木曜日午後2時から4時リージョンプラザ上越のコンサートホールで食品ロスの削減に向けた生活環境大会を実施したいという事で、考えてございます。当日は事前申し込み不要の当日自由参加ですので、ぜひご興味のある方は、食品ロス削減の講演等も実施いたしますので、足をお運びいただけたらと考えておりますので、ご案内させていただきます。

小林委員：食品ロス削減のための宴会の話ですが、十日町市では、宴会前に「天神囃子」を歌い終わるまでは席を立ってはいけないということがありまして、「幹事さんがんばれキャンペーン」、「幹事さんお願ひキャンペーン」、「幹事さんにごほうびキャンペーン」など幹事さんに向けての物があれば良いと思ひました。

笹川委員：飲食店をしておりますので、ぜひ皆さんにやっていただきたいと思ひます。ただ、地酒で乾杯と料理は別な方がいいのではないのでしょうか。うちは両方やっておりますが、地酒で乾杯ということは、可能でないお店も出てくるのではないのでしょうか。食べ切ろうとは別で推進して頂いた方が、広まりやすいと思ひます。

高橋会長：「おいしく残さず食べきろう」は、食べきるのがいいのか、残さないことがいいのか、強調するポイントがずれているのではないのでしょうか。

農村振興課古澤課長：参考にさせていただきます。ちなみに福井では、「おいしい食べきり運動」というおいしく食べるという形が強調されておりますので、検討したいと思ひます。

井上委員：先ほどの通りお酒と食べ物と一緒にしない方がいいです。「おいしく残さず食べきろう」というのは、苦しく感じます。「おいしく残さず」は。

松田委員 : このキャンペーンは、食べる側のお客様を主としたものでしょうか、それとも飲食店の方も料金設定で食べきっていただくようなメニューの作り方などの取り組みをお願いするとか、両方への取り組みをした方が楽しく「おいしく残さず」というところに近づくのではないのでしょうか。

農村振興課栗和田副課長：飲食店の方々と意見交換させていただく中で、営業の中ですべてを対応するのは難しい面があるとお聞きしていますので、まずは市民の皆さん、幹事の方から食べきりという形で出された食事については食べきっていただくという形を進めていきたいと思っております。ご協力いただける飲食店の皆様には、できるだけ食べきれるようにしていただければありがたいと思っております。出席者の性別や年齢など幹事の方からお店に伝えていただき、適量注文していただき、またはご相談していただきながら、まずは食べる側の市民の皆様の方にアプローチをしていきたいと考えております。

農村振興課古澤課長：ありがとうございました。

皆様のご意見を基に検討してまいりたいと思っております。

それでは、長時間に渡り、皆様の積極的なご発言と貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。

以上で「平成 28 年度 第 2 回上越市食育推進会議」を終了いたします。

本日はありがとうございました。

9 問合せ先

農林水産部農村振興課

TEL：025-526-5111（内線1276）

E-mail：nousonshinkou@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も合わせてご覧ください。